

# .Deb

銀河系唯一のDebian専門誌

2012年12月15日

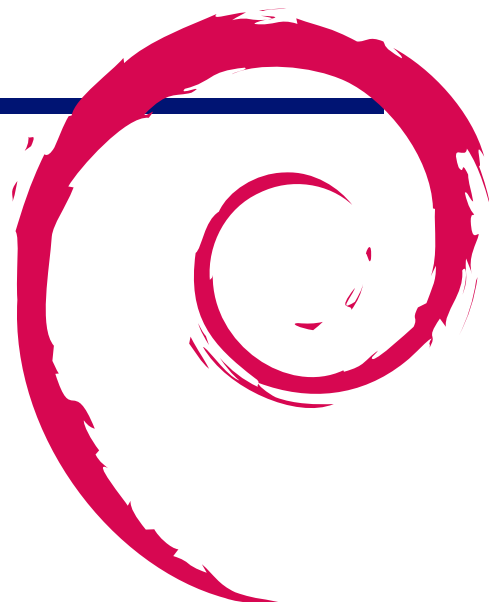
特集 1: 2012年の振り返り

特集 2: 著作権法改正



# 1 Introduction

上川 純一



今月の Debian 勉強会へようこそ。これから Debian の世界にあしを踏み入れるという方も、すでにどっぷりとつかっているという方も、月に一回 Debian について語りませんか？

Debian 勉強会の目的は下記です。

- Debian Developer (開発者) の育成。
- 日本語での「開発に関する情報」を整理してまとめ、アップデートする。
- 場 の提供。
  - 普段ばらばらな場所にいる人々が face-to-face

で出会える場を提供する。

- Debian のためになることを語る場を提供する。
- Debian について語る場を提供する。

Debian の勉強会ということで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりとするスーパーハッカーになった姿を妄想しています。情報の共有・活用を通して Debian の今後の能動的な展開への土台として、「場」としての空間を提供するのが目的です。

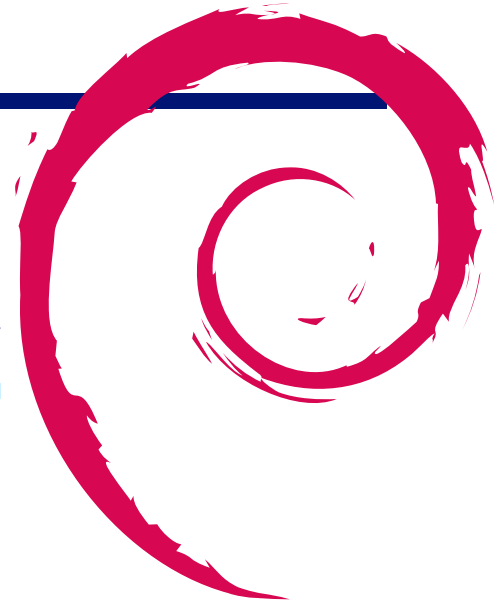
# 東京エリア Debian 勉強会

## 目次

1	Introduction	1	4	2012年度東京エリア Debian 勉強会の振り返り	7
2	事前課題	3	4.1	基本的な数値	7
2.1	吉野 (yy-y-ja-jp)	3	4.2	過去のテーマ	8
2.2	seiji-n	3	5	日本における DFSG の求める自由と2012年改正著作権法	11
2.3	dictoss(杉本 典充)	3	5.1	はじめに	11
2.4	キタハラ	3	5.2	著作権法改正	11
2.5	石井一夫	4	5.3	ハードウェア・ソフトウェアの傾向	12
2.6	akikazu.sudou	4	5.4	おわりに	13
2.7	なかおけいすけ	4	6	東京エリア Debian 勉強会資料の準備の方法	14
2.8	野島 貴英	4	6.1	文章ルール	14
2.9	koedoyoshida	4	6.2	レポジトリの取得	14
2.10	yamamoto	4	6.3	コミットの方法	14
2.11	野首	5	6.4	ファイルの編集	15
2.12	osamu@debian.org	5	6.5	pLaTeX+latex-beamer で文書作成	16
2.13	まえだこうへい	5	7	索引	18
3	最近の Debian 関連のミーティング報告	6			
3.1	東京エリア Debian 勉強会 94 回目報告	6			

## 2 事前課題

上川 純一



今回の事前課題は以下です:

1. 2012 年の勉強会のテーマとして各月なにをするべきか提案してください。
2. 自分がどのテーマを担当したいか提案してください。

この課題に対して提出いただいた内容は以下です。

### 2.1 吉野 (yy-y-ja-jp)

2.1.1 DFSG における自由について論じてください。  
自由を守るための制限である。

2.1.2 Debian に関して、2012 年をふりかえて 2013 年やっておきたいことを論じてください。  
Bug squashing, DDTP などでの翻訳

### 2.2 seiji-n

2.2.1 DFSG における自由について論じてください。

5. すべての個人、団体の平等
6. ライセンスは、すべての個人や団体を差別してはなりません。

DFSG の上記各条項に関して、テロリスト等反社会团体や犯罪者、犯罪集団による反社会的活動、犯罪行為への利用に対して、差別ではなくと区別はしており、(規制はできないながらも)決して全面的に承認している訳ではないという意志表明的な事をすべきではないか。なぜしないのか。その上での自由ではないかと考えています。

目標分野の平等

2.2.2 Debian に関して、2012 年をふりかえて 2013 年やっておきたいことを論じてください。  
恐縮ですが 2012 年は Debian に関して何もしていません。これから学んで行きたいと思っています。

### 2.3 dictoss(杉本 典充)

2.3.1 DFSG における自由について論じてください。  
9 番目の「ライセンスは他のソフトウェアを侵害しない」とある。LGPL ライセンスは GFSG 互換ライセンスだが実行時は他のソフトウェアの自由を侵害している場合がありそうな気がするがどうなんだろうか。

2.3.2 Debian に関して、2012 年をふりかえて 2013 年やっておきたいことを論じてください。  
今年 armel アーキテクチャの debian を初めて自分でインストールしてみた。先人達の知恵があるため割とすんなり入ってしまって debian はすごいと思った。来年は mips 系のハードを探して debian を入れて色々試してみたいと思います。

### 2.4 キタハラ

2.4.1 DFSG における自由について論じてください。  
論じる程の知能はないので、代わりに感想を。他のライセンス等に比べ、間口が広く、現実的で、制限が少なく、開発者のみならず利用者にも心地のよい自由であると思う。

2.4.2 Debian に関して、2012 年をふりかえて 2013 年やっておきたいことを論じてください。  
私事ですが、異動で使えなくなった Debian 社内サーバの代わりに何とかしたいですね。

## 2.5 石井一夫

### 2.5.1 DFSG における自由について論じてください。

よくわかりませんが、ソースコードの公開とその運用の自由は維持してほしいです。

### 2.5.2 Debian に関して、2012 年をふりかえって 2013 年やっておきたいことを論じてください。

ビッグデータ関係が、主戦場になっています。ZFS の適用、セキュリティの強化の面から、kfreeBSD に注目しています。2013 年は、ビッグデータと kfreeBSD でなにか貢献ができればと考えています。

## 2.6 akikazu.sudou

### 2.6.1 DFSG における自由について論じてください。

よく知らないけれど、DFSGのおかげで今の debian が使えるのなら、ありがたいものだと思います。

### 2.6.2 Debian に関して、2012 年をふりかえって 2013 年やっておきたいことを論じてください。

debian ホストの仮想環境をいじってみたいです。

## 2.7 なかおけいすけ

### 2.7.1 DFSG における自由について論じてください。

Debian は、Debian 社会契約により、Debian システムとその構成要素が 100% フリーソフトウェアでなければならないと規定しています。その著作物が「フリー」であると判断するための基準が DFSG です。すなわち、Debian に含まれるソフトウェアは、再配布する自由、個人や団体、目的によらず使用する自由、および改変する自由をユーザーに与えるものでなければなりません。

特に目的如何に問わずソフトウェアを使用する自由と、ソースコードを入手し、かつ改変する自由は、開発元がサポートをやめたとしても、( やろうと思えば ) ユーザが自分たちでなんとかなるということです。これは長期間システムを維持することを求められる現場において非常に強力な武器になります。

## 2.8 野島 貴英

### 2.8.1 DFSG における自由について論じてください。

debian を主に使っていると、なんかもう空気のような当たり前の存在に感じてしまう DFSG です。ここでうたわれている自由は、エンジニアライフにとって最低限不可欠な自由だと個人的には思っています。ただ、自分の知見が足りない為か、実は DFSG でうたわれている自由がどんな事を犠牲にして、どんな努力でさええられているのかがあまりよく解っておらず... このあたり誰か教えてーっ。

### 2.8.2 Debian に関して、2012 年をふりかえって 2013 年やっておきたいことを論じてください。

2012 年は、おかげさまで、ちょっとはアウトプットできた? 2013 年はさらにアウトプット( ハック等 ) に励みまうす。

## 2.9 koedoyoshida

### 2.9.1 DFSG における自由について論じてください。

ソフトウェア開発者のための自由ですね。ある意味極北のディストリビューションであり、Debian の最大の特徴だともいえます。Ubuntu との最大の違いといっても良いのではないのでしょうか。

### 2.9.2 Debian に関して、2012 年をふりかえって 2013 年やっておきたいことを論じてください。

DebianJP 参加。

## 2.10 yamamoto

### 2.10.1 DFSG における自由について論じてください。

DFSG は、ソフトウェアの自由を確保するためには、なかなかよくできたガイドラインだと思います。これにいくつかの事項を加えて OSD としたのも納得できます。また、完全にボランティアベースである Debian には、「フリーソフトウェアコミュニティとの「社会契約」」と共に、Debian が理想とするあり方を明示し、これらに賛同する者たちを集めるには必要なものと考えます。また DFSG フリーを保証することで、派生ディストリビューションなどの二次配布物の作成を容易にしたとも言えるでしょう。

ただし、例えば理想をひたすら追い求める RMS とかとは違い、Debian は DFSG フリーなソフトウェアだけでは成り立たない現実も理解していて、「フリーソフトウェアコミュニティとの「社会契約」」の第一項では「Debian は 100% フリーソフトウェアであり続けます」とありますが、第五項の「私たちのフリーソフトウェア基準に合致しない著作物について」において、non-free や contrib リポジトリの作成を謳っています。もちろん第一項により、これらは正式な Debian のパッケージとは言えませんが、BTS などその配布物に関する問題発生などを監視したりすることなどにより、利用をサポートしたり配布したりしています。

これらの「理想」と「現実」の折り合いをつける感覚が、私はとても気に入っています。

### 2.10.2 Debian に関して、2012 年をふりかえって 2013 年やっておきたいことを論じてください。

特に無いかな?

## 2.11 野首

### 2.11.1 DFSG における自由について論じてください。

DFSG は「開発者」「配布者」「利用者」3者がバランスよく自由を享受できるようにしたものだと思っています。それぞれがかなりギリギリのラインをとっているように感じているので、今後変更されることはおそくないように思います。

### 2.11.2 Debian に関して、2012年をふりかえって2013年やっておきたいことを論じてください。

全てのパッケージをきちんと format 3 に対応させたいところですが、あとは vcs-buildpackage の利用促進と外部への公開も進めたいところ。

## 2.12 osamu@debian.org

### 2.12.1 DFSG における自由について論じてください。

DFSG の定義に賛成なんですけど、FSF とのギャップの現実的解決策は、大事なことを忘れずいい意味での「寛容」なスタンスが双方必要かな？

### 2.12.2 Debian に関して、2012年をふりかえって2013年やっておきたいことを論じてください。

日本語入力の im-config への移行と改善ができたのが2012年、gnome-shell の最新版( > 3.6 )への対応が2013年の課題。

## 2.13 まえだこうへい

### 2.13.1 DFSG における自由について論じてください。

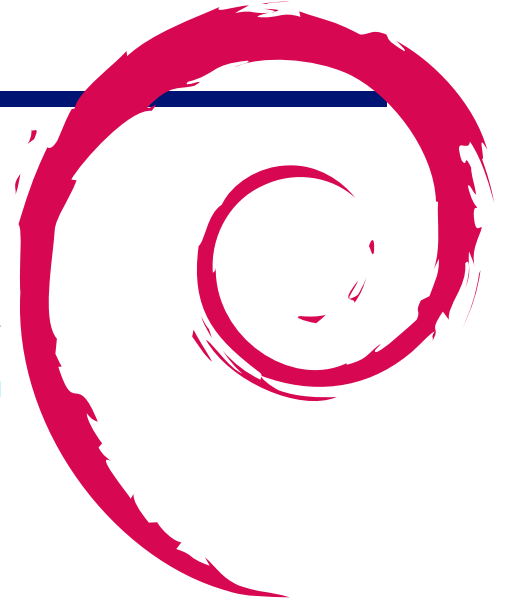
「すべての個人、団体の平等」「目標分野の平等」があるおかげで、利用目的、使い方問わず、自由に使える恩恵を享受しています。一方、フリーソフトウェア、もしくは OSS ではなく、単にソースコードが公開されているということで満足している人もいます。そういう人が Debian やその派生物を利用するのもまた自由なので、DFSG に賛同する人が増えるよう活動を続けていく必要があるのかなと思います。

### 2.13.2 Debian に関して、2012年をふりかえって2013年やっておきたいことを論じてください。

今年は特に活動できなかったんで、時間を作れるようにすることが第一。メンテナンスできてないパッケージや、ITP したままになっているのとか、やる事は多いです。あとは来年も大統一 Debian 勉強会やりたいですね。

## 3 最近の Debian 関連のミーティング報告

上川純一



### 3.1 東京エリア Debian 勉強会 94 回目報告

東京エリア Debian 勉強会、11 月の勉強会の参加者は Alice.ferrazzi、吉野さん、日比野さん、吉田@小江戸さん、北原さん、dictoss さん、MATOHARA さん、鈴木崇文さん、野島さん、岩松 信洋さん、やまもとさん、野首さん、wavekidsjp さん、上川でした。

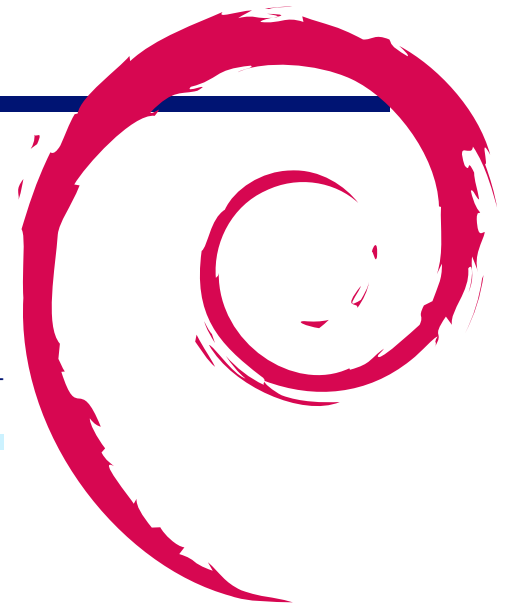
事前課題で盛り上がったのは DFSG Free と Binary Blob についての議論でした。インストーラが DFSG Free であるということは Non-free な Binary Blob を含めないことになるのですが、最近のネットワークドライバはほとんど Binary Blob を必要とするので不便であるということでした。できるだけそういうデバイスは買わないことで消費者としては意思表示すべきだというのが理想論ですよね。

上川が Bluetooth Tethering について語りました。Bluetooth Tethering の良さはあまり知られていないようです。

上川が Linux perf について語りました。systemtap とか ftrace とかについての質問が出ましたが、よくわかってないので回答できず。

岩松さんが Systemd について紹介しました。

宴会ははなの舞にて。



## 4 2012 年度東京エリア Debian 勉強会の振り返り

上川 純一

今月で 8 年目の東京エリア Debian 勉強会が終了しました。

### 4.1 基本的な数値

出席数の推移をみましょう。最近では出席が把握できていない回が多いのですが、だいたい参加者数 12 人くらいで推移しているようです (図 1)。事前課題の提出数 (図 2) は最近では安定していて提出率が向上しているようです。

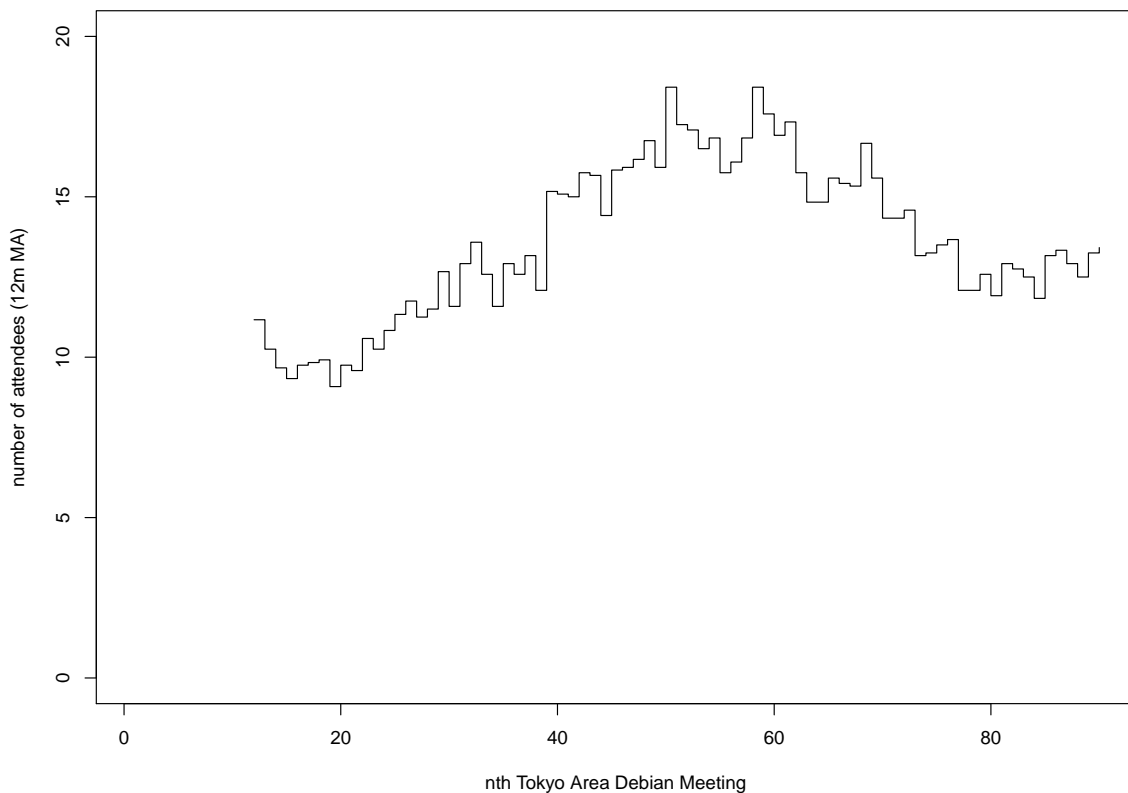


図 1 東京エリア Debian 勉強会出席実績 (12ヶ月移動平均)



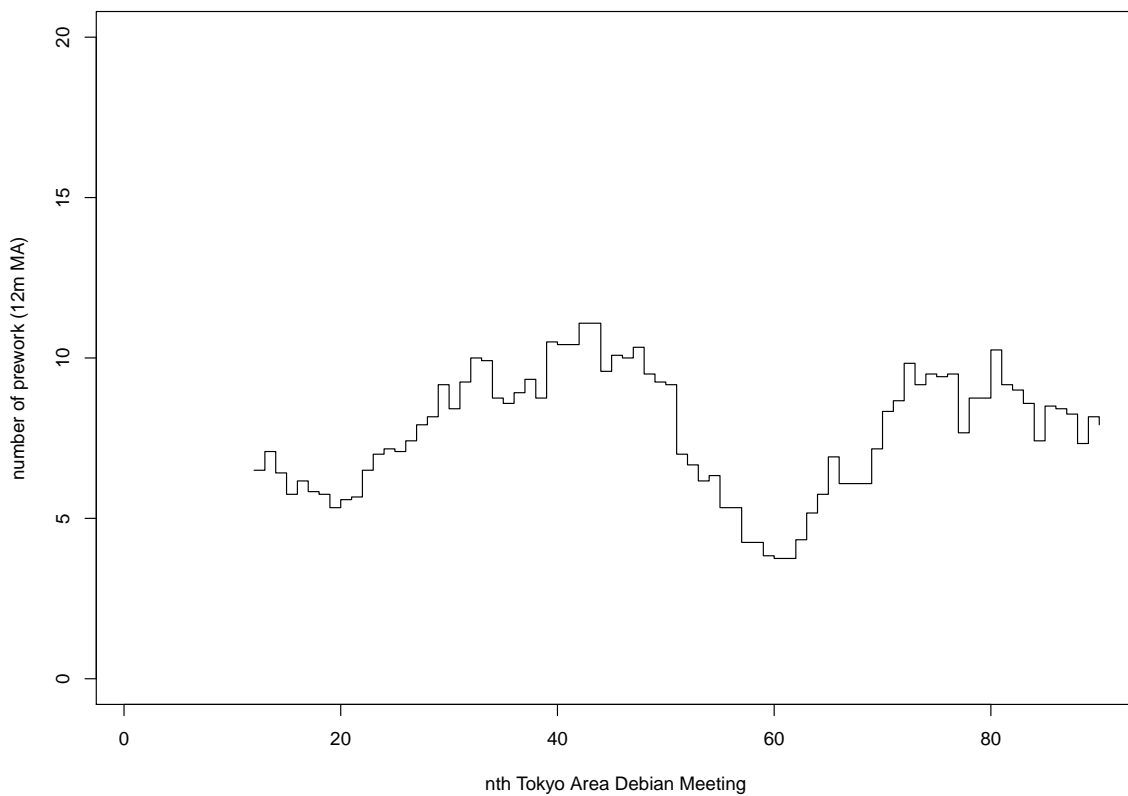


図2 東京エリア Debian 勉強会事前課題提出実績 (12ヶ月移動平均)

## 4.2 過去のテーマ

過去のテーマを眺めてみましょう。2012年は月刊 Debhelper を中心に Debian パッケージ開発の基本的な部分をおさえつつ、Debian を使って開発する開発者のための応用的なテーマについて多くとりあげたと思います。

表1 東京エリア Debian 勉強会参加人数 (2005-2006 年)

	参加人数	内容
2005 年 1 月	21	秘密
2005 年 2 月	10	debhelper 1
2005 年 3 月	8	(早朝) debhelper 2、 social contract
2005 年 4 月	6	debhelper 3
2005 年 5 月	8	DFSG、 dpkg-cross、 lintian/linda
2005 年 6 月	12	alternatives、 d-i
2005 年 7 月	12	toolchain、 dpatch
2005 年 8 月	7	Debconf 参加報告、 ITP からアップロードま で
2005 年 9 月	14	debconf
2005 年 10 月	9	apt-listbugs、 バグレ ポート、 debconf 翻訳、 debbugs
2005 年 11 月	8	DWN 翻訳フロー、 sta- toverride
2005 年 12 月	8	忘年会
2006 年 1 月	8	policy、 Debian 勉強会 でやりたいこと
2006 年 2 月	7	policy、 multimedia
2006 年 3 月	30	OSC: debian 勉強会、 sid
2006 年 4 月	15	policy、 L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X
2006 年 5 月	6	mexico
2006 年 6 月	16	debconf、 cowdancer
2006 年 7 月	40	OSC-Do: MacBook Debian
2006 年 8 月	17	13 執念
2006 年 9 月	12	翻 訳 、 Debian- specific、 oprofile
2006 年 10 月	23	network、 i18n 会議、 Flash、 apt
2006 年 11 月	20	関西開催: bug、 sid、 packaging
2006 年 12 月	14	忘年会

表2 東京エリア Debian 勉強会参加人数 (2007-2008 年)

	参加人数	内容
2007 年 1 月	15	一年を企画する
2007 年 2 月	13	dbns, dpatch
2007 年 3 月	80	OSC 仮想化
2007 年 4 月	19	quilt, darcs, git
2007 年 5 月	23	etch, pbuilder, superh
2007 年 6 月	4	エンジンバラ開催: Deb- conf7 実況中継
2007 年 7 月	18	Debconf7 参加報告
2007 年 8 月	25	cdn.debian.or.jp
2007 年 9 月	14	exim
2007 年 10 月	30	OSC Tokyo/Fall(CUPS)
2007 年 11 月	19	live-helper, tomoyo linux kernel patch, server
2007 年 12 月	11	忘年会
2008 年 1 月	23	一年を企画する
2008 年 2/29,3/1	36	OSC
2008 年 3 月	37	データだけのパッケー ジ、ライセンス
2008 年 4 月	17	バイナリパッケージ
2008 年 5 月	20	複数のバイナリパッケー ジ
2008 年 6 月	10	debhelper
2008 年 7 月	17	Linux kernel patch / module パッケージ
2008 年 8 月	10	Debconf IRC 会議と Debian 温泉
2008 年 9 月	17	po4a, 「 Debian メンテ ナのお仕事」
2008 年 10 月	11?	OSC Tokyo/Fall
2008 年 11 月	17	「 その場で勉強会資料を 作成しちゃえ」 Debian を使った L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X 原稿作 成合宿
2008 年 12 月	12	忘年会

表4 東京エリア Debian 勉強会参加人数 (2011-2012 年)

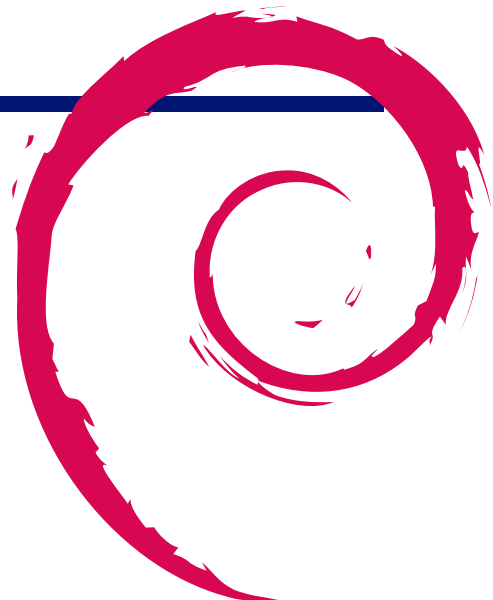
	人数	内容
2011 年 1 月	12	Kinect, アンケートシステム, CACert サイン会
2011 年 2 月	13	HDFS, Debian Game Team
2011 年 3 月	?	OSC Tokyo / Spring, CACert ATE Tokyo
2011 年 4 月	12	IIJ, backports, initramfs, 月刊 PPC64
2011 年 5 月	15	Apache2 モジュール, Debian on ニフクラ, Debian/m68k, 月刊 PPC64
2011 年 6 月	17	ドキュメント処理系, 2011 再計画
2011 年 7 月	3	DebConf 11
2011 年 8 月	12	パッケージング関連, Debconf11 報告
2011 年 9 月	9	山喜旅館, Debian 温泉 2011
2011 年 10 月	22	筑波大学, Haskell, LaTeX, レポート自動生成, 月刊デブヘルパー開始
2011 年 11 月	?	OSC Tokyo/Fall
2011 年 12 月	9	スクウェア・エニックス, quilt で porting, 月刊デブヘルパー, 振り返り
2012 年 1 月	8	Debian 勉強会予約システム, VPS, twitter, 月刊デブヘルパー, 2012 年計画
2012 年 2 月	4	KDE 開発, 月刊デブヘルパー, cmake, 第0回福岡勉強会
2012 年 3 月	?	OSC
2012 年 4 月	13	node.js, android で Debian, 月刊デブヘルパー
2012 年 5 月	14	coffeescript, python
2012 年 6 月	?	大統一 Debian 勉強会
2012 年 7 月	8?	MacBook Air 2011
2012 年 8 月	6?	Debconf 2012, 月刊デブヘルパー, C++11
2012 年 9 月	12	OSC Tokyo Fall
2012 年 10 月	10	Haskell, レゴ, xf86-input-mtrack
2012 年 11 月	14	bluetooth tethering, linux perf, systemd
2012 年 12 月	?	忘年会

表3 東京エリア Debian 勉強会参加人数 (2009-2010 年)

	参加人数	内容
2009 年 1 月	12	一年を企画する
2009 年 2 月	30	OSC パッケージハンズオン
2009 年 3 月	23	Common Lisp, パッケージ作成
2009 年 4 月	15	Java Policy, ocaml, 開発ワークフロー
2009 年 5 月	13	MC-MPI パッケージ化, Erlang, Android アプリ, DDTP
2009 年 6 月	14	DDTP・DDTSS, bs-dstats パッケージ, Debian kFreeBSD
2009 年 7 月	4	スペインにて Debconf 9
2009 年 8 月	14	スペイン Debconf 9 参加報告
2009 年 9 月	26	GPG キーサインパーティー
2009 年 10 月	30	OSC Tokyo Fall
2009 年 11 月	12	Octave, R, gnuplot, auto-builder
2009 年 12 月	10	忘年会
2010 年 1 月	17	東京大学にて新年会
2010 年 2 月	11	Debian 温泉, ocaml, haskell
2010 年 3 月	12	weka, fftw, dpkg v3 quilt
2010 年 4 月	15	upstart, piuparts, debtags
2010 年 5 月	22	筑波大学, kernel
2010 年 6 月	12	OSC-Do リハーサル
2010 年 7 月	0	キャンセル
2010 年 8 月	3	Debconf (NYC)
2010 年 9 月	30	OSC Tokyo/Fall
2010 年 10 月	13	俺の Debian な一日
2010 年 11 月	15	ext4, btrfs, nilfs, ceph
2010 年 12 月	14	cacert, libsane

## 5 日本における DFSG の求める自由と 2012 年改正著作権法

上川 純一



### 5.1 はじめに

Debian の基本的な思想ともいえる Social Contract、およびその中に含まれる DFSG は自由にソフトウェアの開発ができる環境を理想と考えるものです。ユーザを尊重するよりまえに 100%フリーソフトウェアであることをうたっている点などもあり、ソフトウェアの複製や改変をする自由を尊ぶユーザが Debian を選択しています。

しかし自由なソフトウェアの開発は自明に支持されるものではありません。自由なライセンスのソフトウェアを確保することは難しく、改変不自由な秘密のソフトウェアを買ってくるのは簡単です。各国においての法律、企業による技術的設計・制約などに影響されます。

ソフトウェアを自由に勉強して改変して開発できる環境がないとソフトウェア利用の幅が失われるだけでなく、ソフトウェア開発できる人の層が薄くなり、結果として日本国におけるソフトウェア開発能力の低下に至るでしょう。

自分で書いたソフトウェアを動かせないハードウェアしか市場にでまわっていないのであれば、ソフトウェアを作成するという経験を享受する機会が極端に減ります。

一年の棚卸の意味も兼ねて、最近の日本の事情を調べてみました。

### 5.2 著作権法改正

最近大きな法律の変化としては、2012年の改正著作権法があります。議論の経緯や結果どういことになったのか、などいろいろな情報が提供されているようなので我々のソフトウェア開発にどうい影響がありそうか眺めてみました。

リップングソフトやマジコンが規制対象になったと報道されていますが、具体的にはどう変わったのでしょうか。文化庁のウェブサイトにある解説 [1] によると「(4) 著作権等の技術的保護手段に係る規定の整備」にあたるようです。暗号の解読をとまなう複製行為は民事上違法になり、暗号の解読をできる装置やプログラムの譲渡などを行ったものに刑事罰(非親告罪)が規定されました。

アメリカで成立して一時期大騒ぎになった DMCA 法というのがありました。DMCA でソフトウェア開発に影響の有りそうな部分も順次日本の著作権法に取り入れられているようです。今回の著作権法改正では DRM を実装している暗号の解読するためのソフトウェアの作成が問題となっているようです。フリーソフトウェアでは DVD の再生に必要な鍵のライセンスが手に入らないため暗号を解読してしまう(DeCSS)を利用するなどの回避策がとられてきました。海賊行為に流用できるということで業界には睨まれていたのですが、DRM を回避し複製できるソフトウェアの配布について刑事罰が設定されたようです。

具体的には私的使用の複製に「知って DRM 回避して複製した場合」を例外第 30 条の 2 の例外事項に追加したようです。

著作権法の特徴として、民事だけでなく親告罪でありながら刑事罰が規定されている点です。親告罪とは、被害者が告訴

しないと公訴を提起できないもので、親告罪でなければ警察が適当に被疑者を捕まえることができるようです。

アメリカでは DMCA 法の影響で DeCSS が配布できなくなった時には Usenet 上で DeCSS のソースコードが SPAM で投稿されたり、DeCSS のソースコードが印刷された T シャツを着ることが流行したりしました。日本も同様の祭りは起きるのでしょうか。

libdvdread パッケージは [3]libdvdcss を利用して CSS の復号化と DVD ビデオの再生ができるのですが知って DRM の回避をしていることになると思われます。ただ、複製するために利用できますが、私的に再生するだけであれば私的使用の「複製」をしているわけではないので著作権法の範囲ではありません。オープンソースソフトウェアだけで DVD の再生をするためにはハードウェアが DVD 復号化を行うか、ソフトウェアが DeCSS をする仕組みが必要になります。オープンソースソフトウェアが DVD の複製に利用できるかもしれないということで配布したものに刑事責任が発生するかもしれない、そういう国になったみたいですね。

テレビのデジタル放送をオープンソースソフトウェアだけで視聴しようとする fiiio などのハードウェア機器を活用することになると思いますが、それもまた検討が必要なのかもしれません。

## 5.3 ハードウェア・ソフトウェアの傾向

別に日本に限った話ではないのですが最近の気になる傾向なのでついでにまとめておきました。

### 5.3.1 セキュアブート

最近は公開暗号方式で保護されているプラットフォームが増えてきました。昔はゲームハードウェア、Nintendo DS などが鍵を解読しないとソフトウェアを動かせないというので有名でしたが、最近では Android 携帯が署名されたファームウェアしか起動しない、「セキュアブート」に対応している OS が EFI 経由適切に署名された OS しか起動しないという状況になっています。

iPhone などでは Jail break という方法が編み出され、セキュリティーホールについて自由にソフトウェアを改変して利用しているようです。いつまでも簡単にセキュリティーホールが見つかるという保証はないので、難しい問題です。

### 5.3.2 デバイスドライバとバイナリブロッブ

ハードウェアは一般にはオープンソースソフトウェア専用として開発しているものではなく、また激しい競争のある業界ではお互いにできるだけ多くの部分を秘密にしておきたい。オープンソースの OS でもデバイスドライバのパラメータやロジックなどではできるだけファームウェアとして秘密にしておきたい。下手に改変されて法令準拠できない危険な改変ができないようにしたい\*1。そういう要求を満たすためにデバイスドライバの多くの部分をユーザ（競合他社）の理解・改変できないバイナリ形式で提供するという慣習があります。

デバイスドライバの秘密の部分を binary blob と呼び Debian では長年問題を検討してきました。Kernel から Binary Blob を分離し、問題を露見し、かつ non-free で Binary Blob を配布することでユーザに直接の不利益にならないようにしています。

個人的にはリバースエンジニアリングについて論じた委員会の論点がおもしろいと思いました。[2] 相互運用のためのリバースエンジニアリングは著作権法の文面では著作権の範囲で保護されていないので、リバースエンジニアリングを利用者規定で禁止しているものが多いと思います。

### 5.3.3 マーケット

セキュアブートとの兼ね合いで重要になってくるとされる傾向ですが、Debian Project 自身もデフォルトでは Debian Archive Key で署名されたパッケージしかインストールできないように設定されています。これは Debian Project として出自がわかっている安全だと思われるファイルのみがインストールできるようにすることで誰でも間に介在できるインターネット経由でダウンロードしているという環境で安全を担保する仕組みになっています。

現在最大規模だと思われる Apple Inc のアプリケーションマーケットではアップルが規約に合致しているか審査してか

---

\*1 例えば無線通信関連

ら配布許可を出すというシステムになっています。iOS のハードウェアでは基本的には Apple の許可したソフトウェアでないとインストールできなくなっています。規約でプログラム可能なソフトウェアというのを禁止しているので、iOS のハードウェアではプログラミングに親しむことが難しくなっています。

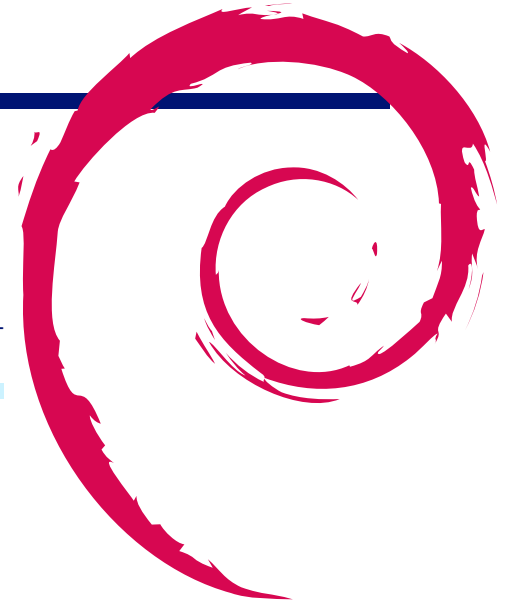
## 5.4 おわりに

自由に技術研究できる文化と環境というのは既得権益を保護したい業界、もしくは激しい競争の行われている業界で競合他社から秘密を守りたい業界の求める変化の方向とは一致しません。安全・安心・信頼できるなソフトウェアが欲しいという方向とも必ずしも一致しません。

一方に極端に有利な変更というのはそのまま通らないでしょうが、— Debian ユーザーとして、自由なソフトウェア開発を支持する層として、今後も状況を注視していきたいと思います。

## 参考文献

- [1] 文化庁「平成 24 年通常国会 著作権法改正について」 [http://www.bunka.go.jp/chosakuken/24\\_houkaisei.html](http://www.bunka.go.jp/chosakuken/24_houkaisei.html)
- [2] 文化審議会著作権分科会法制問題小委員会(第 7 回)議事録「リバース・エンジニアリングに係る法的課題についての論点」 [http://www.bunka.go.jp/chosakuken/singikai/housei/h20\\_07/shiryo\\_1.html](http://www.bunka.go.jp/chosakuken/singikai/housei/h20_07/shiryo_1.html)
- [3] libdvdread Debian package documentation “Content Scramble System (CSS)” `/usr/share/doc/libdvdread4/README.css`



## 6 東京エリア Debian 勉強会資料の準備の方法

上川 純一

### 6.1 文章ルール

文章は敬体に統一しましょう。

固有名詞は基本としては敬称略、フルネーム、で記述しましょう。日本名称の場合、苗字と名前の間には半角の空白を一文字入れます。

### 6.2 レポジトリの取得

まず最初に git のレポジトリを取得します\*2。読み込み専用であれば、git プロトコル、もしくは、http プロトコルでよいでしょう。書き込み権限を持っているのであれば、ssh プロトコルを利用すれば直接 git push でアクセスすることができます。

```
git clone git://anonscm.debian.org/tokyodebian/monthly-report.git
git clone ssh://git.debian.org/git/tokyodebian/monthly-report.git
```

この結果、カレントディレクトリに monthly-report というディレクトリができます。monthly-report/.git 以下がレポジトリです。

```
$ ls -la monthly-report/ |head
total 179440
drwxr-xr-x 123 dancer dancer 159744 11 月 29 17:09 .
drwxr-xr-x 6 dancer dancer 4096 12 月 14 2009 ..
drwxr-xr-x 8 dancer dancer 4096 11 月 29 17:09 .git
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 273 6 月 11 07:18 .gitignore
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 109 7 月 21 2007 .whizzytexrc
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 302 1 月 14 2012 .yatexrc
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 17989 7 月 6 2007 COPYING
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 25168 7 月 6 2007 ChangeLog
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 101740 11 月 27 2008 EUC-UCS2
```

### 6.3 コミットの方法

まず、PDF ファイルが生成できることを確認します。Makefile があるので、make コマンドを入力するとビルドしてくれるはずですが、文字コードが正しいか、正常にビルドできるか、などのチェックが組み込まれているので、チェックに活用しましょう。

```
make
```

その後、git diff でコミットされる内容を確認します。意図している内容が表示され、問題ないようであれば、git commit コマンドでコミットします。手元のレポジトリに反映されます。

\*2 git の使いかた詳細については、2007 年 4 月の勉強会資料を参照してください。apt-get install git-core でインストールできます。



```
git diff
git commit -a -m 'revised XXX'
```

問題がないようであれば、git pull / git push でマージします。git-pull した後にコンフリクトが発生したら、修正し、git commit でコミットしてから git push します。

```
git pull
git push
```

新規のファイルを追加する場合、ファイルを削除する場合には、git add / git rm コマンドを利用します。

## 6.4 ファイルの編集

ドキュメントは pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で作成しています。ファイル名として下記になっています。(YYYY)(MM) は、年と月で、例えば 2012 年 12 月であれば 201212 です。

debianmeetingresume(YYYY)(MM).tex 事前配布資料

debianmeetingresume(YYYY)(MM)-presentation.tex プレゼンテーション用 (prosper を利用)

image(YYYY)(MM)/ 画像ファイルなどの置き場

作業する前にビルドに必要なパッケージをインストールします。

```
# tex から PDF の生成関連
apt-get install texlive-lang-cjk dvipdfmx latex-beamer \
ghostscript xpdf texlive-latex-extra
```

\*3

編集に便利なツールもついでにインストールしてみてもよいでしょう。

```
# apt-get install whizzytex advi emacs21 yatex gs-cjk-resource gv \
evince poppler-data fonts-japanese-mincho fonts-japanese-gothic
```

tex4ht を利用して HTML 出力をさせる場合は下記もインストールしたらよいでしょう。ただし、2007 年 8 月現在、dvi2ps-fontdata-a2n の影響で dvi 出力ができなくなる副作用があります。

```
# tex4ht での HTML 生成関連
apt-get install dvi2ps-fontdata-a2n dvi2dvi dvipng tex4ht
```

文字コードは iso-2022-jp で統一しています\*4。たとえば、emacs + yatex を使用している場合で iso-2022-jp をデフォルトにするには、下記のような設定を .emacs にかけばよいでしょう。

```
(add-hook 'yatex-mode-hook
  '(lambda ()
    (progn
      (if (string-match "~/home/user/tokyodebian/" default-directory)
          (progn (set-buffer-file-coding-system 'iso-2022-jp)
                 (set-buffer-modified-p nil))))))
```

emacs での編集で、outline-mode を利用すると、アウトラインをベースに編集することができ、便利です。tex ファイルの最後に以下のようなエントリーを追加しています。M-x outline-minor-mode で有効にできます。

```
;;; Local Variables: ***
;;; outline-regexp: "\\([ <タブ記号>]*\\\\\\\\(documentstyle\\\\\\\\documentclass\\\\\\\\<改行しない>
dancersection\\\\\\\\)*? [ <タブ記号>]*[[{}\\|[%<L>]+\\\\\\\\]" ***
;;; End: ***
```

- <タブ記号>: タブを入力、

\*3 wheezy だと ptex-bin は存在しない

\*4 Windows 版と Linux 版の ptex で共通して扱える文字コードにしたという経緯があります。ただし現状 Windows で全部できる状況ではありません。



- <^L>: ctrl-L を入力、
- <改行しない>: ここの改行はみやすいように改行をいれているだけで、実際には改行は入力しない。

また、自動で適切な設定で outline-minor-mode に入るように .emacs に設定してもよいでしょう。

```
(add-hook
'yatex-mode-hook
'(lambda ()
  (make-variable-buffer-local 'outline-regexp)
  (setq outline-regexp
    "\\[[ \\t]*\\\\\\\\(documentstyle\\\\|documentclass\\\\|chapter\\\\|dancersection\\\\|
section\\\\|subsection\\\\|subsubsection\\\\|paragraph\\\\)\\\\*?[ \\t]*[[{\\|\\|}%\\f]+\\\\)")
  (setq
outline-level
(function
(lambda ()
  (save-excursion
    (looking-at outline-regexp)
    (cond
      ((equal (char-after (match-beginning 0)) 37) (- (match-end 0) (match-beginning 0)))
      (t (let ((bs (buffer-substring (match-beginning 2) (match-end 2))))
          (cond ((equal (substring bs 0 2) "do") 15)
                ((equal (substring bs 0 1) "c") 0)
                ((equal (substring bs 0 1) "p") 4)
                ((equal (substring bs 0 2) "da") 1) ; dancersection
                ((equal (substring bs 0 2) "se") 1) ; section
                ((equal (substring bs 0 5) "subse") 2) ; subsection
                ((equal (substring bs 0 8) "subsubse") 3) ; subsubsection
                (t (length bs))))))))))
(outline-minor-mode t)))
```

#### 6.4.1 ドキュメントのスタイル

スタイルファイルは monthlyreport.sty パッケージを利用します。過去の資料を参考にしてください。

```
\usepackage{monthlyreport}
```

各担当部分は section として扱います。特別なコマンド dancersection で指定します。形式は dancersection{ タイトル }{ 作者名 } です。その中で subsection や subsubsection を利用して文書を構成してください。

```
\dancersection{Debian 勉強会資料の準備の方法}{上川 純一}
\label{sec:debmtg2007howtoprepare}
```

#### 6.4.2 目次の処理

目次のエントリは下記の形式で作成します。

```
index { alphabet もしくは、 ひらがなの読み @ 項目名称 }
```

#### 6.4.3 画像ファイルの処理

画面写真の画像を追加するときは、できるだけサイズの小さい png などを利用してください。グラフなどの線画であれば、eps でかまいません。png であれば、ebb コマンドを利用して bounding box を作成してください。

```
$ ebb XXX.png
```

ps であれば、eps2eps でバウンディングボックスを追加してあげるとうまくいきます。inkscape の出力する ps を eps2eps で処理すれば inkscape で画像を作成することができます。

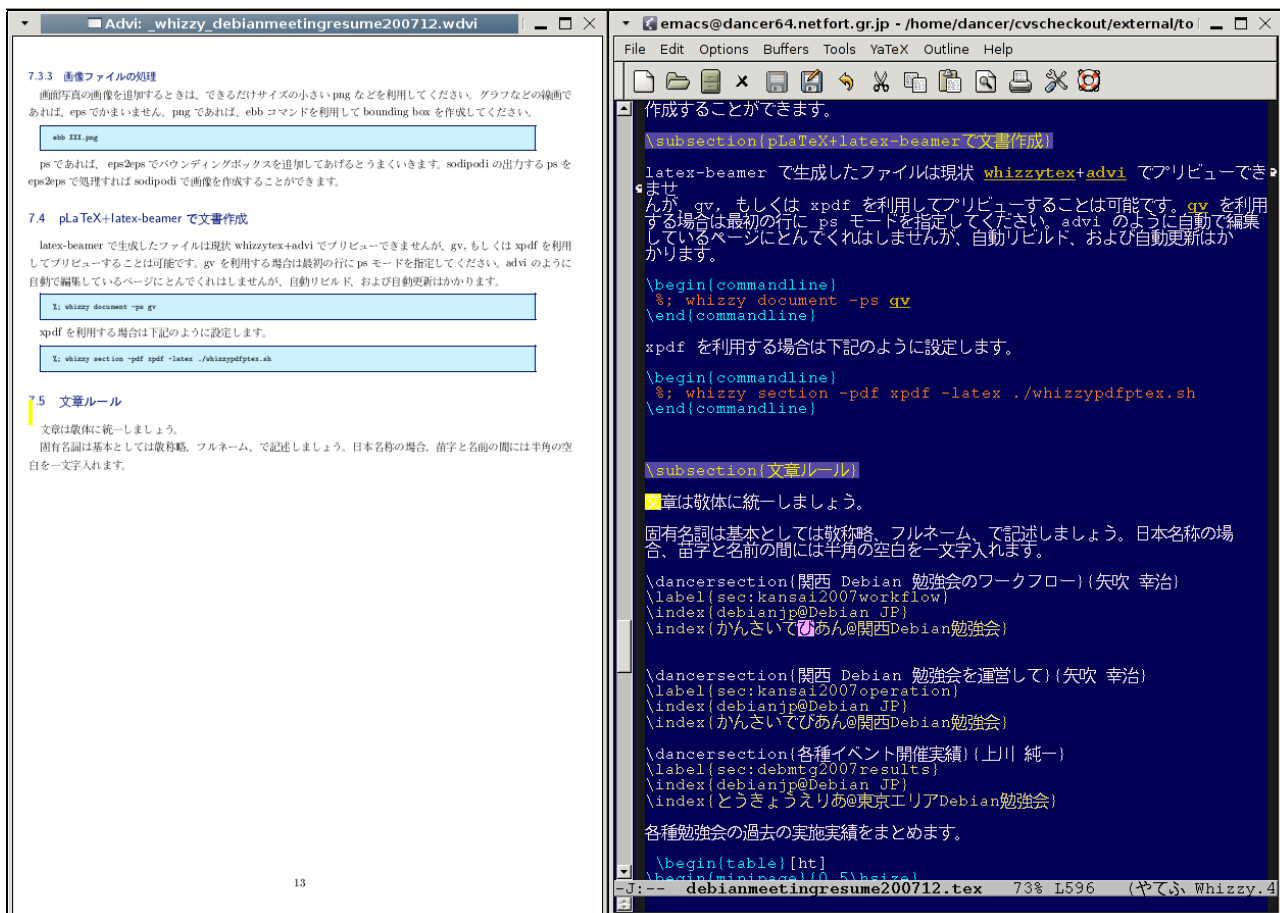
### 6.5 pLaTeX+latex-beamer で文書作成

latex-beamer で生成したファイルは現状 whizzytex+advi でプレビューできませんが、gv、もしくは xpdf を利用してプレビューすることは可能です。gv を利用する場合は最初の行に ps モードを指定してください。advi のように自動で編集しているページにとんでくれはしませんが、自動リビルド、および自動更新はかかります。

```
%; whizzy document -ps gv
```

xpdf を利用する場合は下記のように設定します。

```
%; whizzy section -pdf xpdf -latex ./whizzypdfptex.sh
```

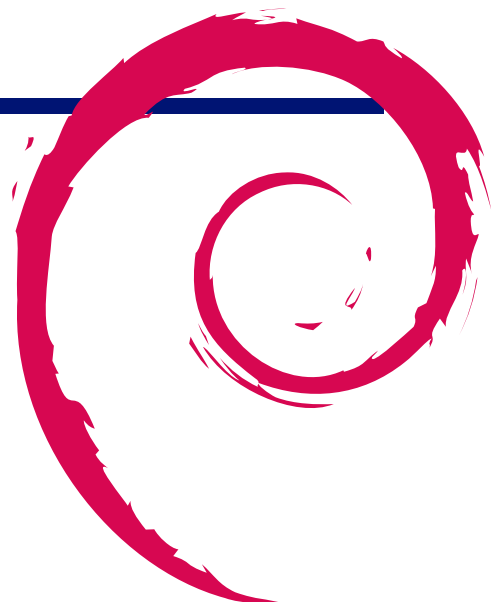


## 7 索引

---

Debian JP, 14  
decss, 11  
dfsg, 11  
dmca, 11  
L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X, 15

libdvdread, 12  
著作権法, 11  
東京エリア Debian 勉強会, 14





**Debian 勉強会資料**

2012年12月15日 初版第1刷発行

東京エリア Debian 勉強会(編集・印刷・発行)

---